



平成30年度 公開審査会報告書

平成30年6月17日（日） 13：30～16：30

高知市保健福祉センター 3階大会議室



【目次】

1 開会 P 2

- ・開会のあいさつ 高知市副市長 吉岡 章
- ・審査員等の紹介
- ・審査の流れ
- ・審査に関してひとこと

2 応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答 P 6

- ・発表団体① おおつっ子 ～満開の笑顔でつなぐれおおつっ子～
- ・発表団体② I K K U 絆コミュニティ ～地域交流でつくる一宮の絆～
- ・発表団体③ 旭地区防災食プロジェクト ～みんなの命と食をこどもが守るんジャー！
- ・発表団体④ 太平洋学園コミュニティー協力隊
(学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～避難所生活を皆で考えよう～)
- ・発表団体⑤ 虹を見る子どもたちプロジェクト
(虹を見る子どもたちプロジェクト～夢を叶えよう～)
- ・発表団体⑥ A O Y A G I 地域盛り上げ隊
～過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をよみがえらせよう！～
- ・発表団体⑦ natural チーム ～豊かな里山の四季の食材を発見し、久重のごちそうを広めよう！～

3 こども審査員による一次判断 P 22

4 審査員による公開審議 P 23

5 審査結果発表 P 33

- ・審査結果発表 吉門審査副委員長
- ・こども審査員からの感想発表
- ・こどもファンドアドバイザー・こども審査員サポーターからの感想発表
- ・講評 卯月審査委員長



1 開会

開会のあいさつ 高知市副市長 吉岡 章



皆様こんにちは。高知市副市長の吉岡と申します。本日はこどもファンド公開審査会に、このように多くの皆様にご参加いただきまして本当にありがとうございます。本来でしたら岡崎市長が皆様にご挨拶を申し上げなければならないところですが、他の用務のため出席ができませんので、私の方からひと言ご挨拶をさせていただきます。まずは、お子さんだけではなく多くのご父兄の皆様や関係者の皆様にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また、今日お集まりの皆様は、日頃から地域・教育・環境面など様々な行政の分野において、大変なご支援とご協力をいただいておりますことに、心からお礼を申し上げます。

さて、このこうちこどもファンドでございますが、平成24年から始まりまして、今年で7回目を迎えます。このこどもファンドの事業を始めようと考えましたのは、ここにおられます早稲田大学の卯月先生から「ミュンヘンで子供たちによるまちづくりが具体的に進められていますよ」というお話を伺いまして、先生・市職員・NPOの方々と一緒にミュンヘンまで視察に行き、そしてその取り組みを1年かけて、どのような形で高知市でのこどものまちづくり活動にしていくかと考え、できたものがこのこどもファンドです。将来の高知市を担うこどもたちが「こんなまちにしたい」という想いを実現するために始めた事業です。そういう意味では、こどもたちの主体性を大切にしながら、それを我々大人がバックアップして、そして実現していく、その実現の喜びやプロセスも大事なんですが、やはり将来を担う子供たちをしっかりと育てていくという事がとても大切だと思っております。今年も多くのこどもたちに参加をしていただきまして、7つの団体が応募して下さいました。昨年までで合計46件の子供たちの活動が認められまして、それぞれ事業を展開してきましたが、今年は7つです。

また、審査については一般的に大人が行いますが、このこどもファンドではこどもが審査を行います。今回の審査員は大人が7名、こどもが9名です。小学生3名・中学生3名・高校生3名という9名のこどもたちによって非常に厳しい審査がなされ、大人の我々も参考になるんですが、そういう厳しい審査の基にその事業が具体的に展開されて、こどもたちのアイデアがまちづくりの効果的な手法に繋がることを狙っているわけでございます。これは全国的にも珍しい取り組みでして、多くの自治体がこうちこどもファンドを視察に来られるなど、参考にされていると聞いております。高知市では、実はコミュニティ行政というものを非常に熱心に、全国に先駆けてやっております。昭和48年の高度成長期の後半から、お医者さんをやられていた坂本市長という方が「地域のいいところや悪いところをチェックして、改善をしよう」という取り組みを始めました。昭和50年代に大きな台風がありまし

て、住民参加のコミュニティ活動は一時下火になっておりましたが、平成に入りまして、高知市総合計画という行政計画の中で、行政が作る行政計画をちゃんと相互補完しながらいいまちを作っていくということでコミュニティ計画をしっかりと位置づけました。その後、平成15年に「市民と行政のまちづくりパートナーシップの条例」が策定されました。それと前後して、大人の「まちづくりファンド」や子どもたちがまちを運営する模擬社会を作る「とさっこタウン」ができ、この子どもファンドができました。私たちが考えているのは、子供から大人・高齢者まで、みんなが自分達のまちにしっかりと関心を持ちながら、ずっと繋がっていくような取り組みを進めていきたいと思っています。また、皆様と一緒にやっていくことで自分達の住んだ地域を愛していく、地域として人間関係が構成されていく、そういうものをしっかりと構築して行って、今言われている少子高齢化・人口減少の中でしっかりと地域の中で繋がっていくようなまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。皆様には、この子どもファンドだけではなく、高知市が展開しております多くのまちづくり活動に、ぜひ参加していただきたいと思います。また、高知大学では地域協働学部ができましたし、高知県立大学では「域学」をテーマにして授業が展開されており、学生のボランティア活動なども非常に盛んになってきておりますので、皆で高知のまちを盛り上げていきたいと考えております。今日は長い一日になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

審査員等の紹介

【こども審査員（9名）】

古谷 愛夏（旭小学校4年）、前田 桔平（秦小学校5年）、増田 光祥（高知小学校6年）、宇賀 みくも（城西中学校3年）、森本 向日葵（大津中学校3年）、田部 祥一郎（城西中学校3年）、吉本 怜（北高校2年）、松田 恭香（高知商業高校2年）、井上 彩乃（高知商業高校2年）

【大人審査委員（7名）】

審査委員長・卯月 盛夫（早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授）、審査副委員長・吉門 文恵（株式会社ケンジン代表取締役社長）、梶 英樹（高知大学地域連携推進センター地域コーディネーター講師）、尾崎 昭仁（特定非営利活動法人NPO 高知市民会議プロジェクトマネージャー）、横田 寿生（市教育長）、谷脇 禎哉（市市民協働部長）、山川 瑞代（市こども未来部長）

【サポート役（2名）】

こども審査員サポーター 利根 由佳（市教育委員会学校教育課 指導主事）、

こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行

【協力】

NPO法人要約筆記高知・やまもも（要約筆記）

審査の流れ

- ①助成申請した活動内容について、各応募団体が公開によるプレゼンテーションを行います。(持ち時間は3分間)
- ②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。(5分間)
- ③公開プレゼンテーションと質疑応答の結果をふまえ、こども審査員9名が、各応募事業について「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」のいずれの項目に該当するか、一次判断を行います。
- ④一次判断の結果をもとに、「助成をするかしないか」について、こども審査員と大人審査委員が公開で審議を行います。また、「もう少し質問がある」「もうちょっと!」にシールが貼られている団体に対しては、審査員から再度、質疑応答の時間を設けます。
- ⑤公開での審議後、こども審査員9名が、助成するかしないかについての最終判断を行い、こども審査員の過半数、5名以上が助成すると判断した場合に助成が決定します。
- ⑥審議結果については、公開の場で発表します。

審査に関してひとこと

【森本委員から】



今回のプレゼンの評価のポイントは3つ考えており、

- ①こどもたちが中心となって活動できるか
- ②計画性をもって先のことを考えているか
- ③地域の人々のために役に立てるか

この3つのポイントで、わたしたちこども審査員は評価をさせていただきます。本日は頑張ってください。

【畠中こどもファンドアドバイザーから】



今回は7団体から応募があり、本日の公開審査会までに5つの団体にアドバイスに入りました。そして、一緒に考え方を整理していきました。今日は発表される皆さんと同じように、その思いがどこまで伝わるか、僕もドキドキわくわくしながら発表を聞かせていただきます。それと、緊張して言いたいことが言えなくなるかもしれませんが、3分という短い時間の中で伝えることは大

変だと思えます。けれども、もし言い抜かったことやいい足りないことがあったら、きっと審査員の皆さんが質問を下さると思えます。なので、安心して発表していただいて、審査員の質問に答えていただければ、皆の思いが伝わると思えます。本日はよろしくお願ひします。

2 応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答

発表団体① おおつっ子 ～満開の笑顔でつなぐれおおつっ子～

【以下、パワーポイントを使いながら寸劇でのプレゼンテーション】



こんにちは、おおつっ子です。突然ですが、これは何か分かりますか？これはアルミ缶を回収するためのリヤカーです。私たち大津中では、アルミ缶回収を行って、地域に車椅子などを贈呈し、地域に貢献する活動を行っています。でもさあ、アルミ缶だけやと、地域の人との関わりが浅い気がするがよね。確かにそこが課題やね。うーん。そうや！今年の活動は地域との関わりを深める活動をしようや！えいねー。

そんな中生まれたのが、私たちおおつっ子の活動です。今年の活動計画はこれ！8月は大津まつりへ参加。8月から2月は防災劇。2月は愛校作業での炊き出し訓練があり、主に大津まつり・防災劇・炊き出し訓練の3つの活動を行います。ねえねえ、その3つって具体的にどんな事するが？そんな疑問があるあなた、私たちおおつっ子がお答えします。

まず大津まつり。大津まつりは毎年大津中グラウンドで行われていて、生徒会はかき氷を販売しています。かき氷販売で得たお金は、アルミ缶回収の収益金と合わせて地域福祉等に使っています。ただ、地域と交流するだけじゃなくて、地域福祉にも貢献しゆうがやね。

次は防災劇。防災劇は初めての取り組みで、課題解決の第一歩にもなっています。学校の授業や地域の方の話から、防災について学び、防災劇という形で地域に返したいと思います。防災劇って例えばどんな事するが？そうやね～、おおつっ子ちゃんが防災について教えてくれるがで。えっ、観たい。どこでやるが？大津中の文化祭や、幼稚園・小学校とかでやるがで。楽しみにしちよくわ。

最後に炊き出し訓練。大津中の愛校作業中に、地域の方と協力して豚汁を一緒に作ります。その豚汁は誰が食べるが？愛校作業に参加してくれた生徒や地域の皆さんと一緒に食べるがで。このように大津地区がひとつになるような活動を行い、地域の人との関わりを深めます。私たちおおつっ子は明るい大津を目指します。

満開の笑顔でつなぐれおおつっ子！ありがとうございました。

【質疑応答】

吉本委員

スライドや劇など、とても面白かったと思います。ひとつ質問なのですが、アルミ缶を回収して老人ホームへ寄贈した車椅子について、これは何台だったとか覚えていますか？

おおつつ子

車椅子の贈呈は、今現在では一台です。そのほかにもいきいき百歳体操のおもりも贈呈しています。

松田委員

これまで地域の方と一緒に活動していく中で、地域の方にはどのような声を頂いたかなどを教えてくださいいただけますか？

おおつつ子

この会場にいらっしゃる藤岡さんという地域の方などに、お褒めの言葉をいただきました。

卯月委員長

初めて防災劇に取り組むと言っていましたけれども、防災劇の脚本はどのようにして書くんでしょうか？また、地域の何人くらいの方からお話を聞いて、誰が原稿を書いて、どのくらい練習して防災劇ができるのか教えてくださいませんか？

おおつつ子

はい。大津の防災に詳しい方々がいらっしゃるので、夏までにその人達から避難場所や危険なところを聞いて、それを夏休みに私達メンバーや宗石さんという方、戸田先生などに参加してもらって脚本を作ります。それから夏に劇の練習をして、9月～11月、そして2月には地域や中学校の文化祭で披露させてもらいたいと思っています。

森本委員

アルミ缶はどれくらいの量が集まったんでしょうか？

おおつつ子

昨年度は 144,336 円分のアルミ缶が集まりました。

吉門委員

キャラクターのおおつつ子ちゃんですが、デザインも考えるんでしょうか？

おおつつ子

デザインもキャラクターの衣装に合わせて、皆さんに見に来てもらえるような可愛い服を作りたいと思っています。

【パワーポイントでのプレゼンテーション（ピアノ演奏・バックコーラスあり）】



こんにちは、IKKU 絆コミュニティです。活動のテーマは「地域交流でつくる一宮の絆」です。僕たちは3年間「一宮家おもてなし隊」として活動してきました。3年間の活動を振り返り、できていないことや、もっと広げていけばよいことを考えました。しかし、いい案が浮かびませんでした。そこで、こどもファンドアドバイザーの畠中さんに学校に来ていただき、2度にわたって話し合いを行いました。

話し合いをする中で、次のような課題が浮かびあがりました。1つ目は「交流といっても狭い範囲だった」こと、2つ目は「行った活動を広く地域に伝えることができていなかった」ということです。これらの事から、次のような目標をたてました。IKKU 絆コミュニティでは、様々な形で「交流」「みんなに伝える」ということをしたいと考えています。活動例としては、地域の小学校に出向いての交流、活動したことを新聞のような形でまとめて地域に配ったり、その中で地域の人に集まってもらうことなどを考えています。具体的には、現在当校で作成中の道徳かるたを完成させ、それを使って地域の小学校で交流したり、自分たちの行ってきた活動を発表して、中学校のイメージ改善を図りたいと考えています。そして活動する中で、新聞のようなものを作り、自分達の活動を紹介していきます。また、地域の人に集まっていただき、自分達の活動や清掃活動などに参加してもらったり、自分達の活動を発表したりして、活動をアピールしていこうと思っています。それらの活動をすることで地域がどうよくなるかについては、小学生が喜んでくれたり、中学校や中学生について色々なことを知ってもらえると思うので、中学校は怖いという気持ちをなくすことができるのではないかと思います。また、地域の方とはコミュニケーションも取りやすくなり、そのことが中学生の信頼につながり、あかるいまちになると考えて、活動を行っていきます。

本年度の活動予定は以下の通りになります。この中で、昨年も行っていた大島青松園への訪問ですが、今年度は昨年と違うメンバーで訪問し、新聞などにまとめられるよう、昨年より深く学んでいきたいと思っています。具体的には高知県出身の方のお話を聞かせていただくことや、施設設備などの事を職員さんにインタビューしてみたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。よろしく申し上げます。

【質疑応答】

古谷委員

清掃活動の範囲は、どの辺りを考えていますか？

IKKU絆コミュニティ

近くの公園や学校の目の前にある老人ホームなどの清掃活動を行おうと考えています。

宇賀委員

去年も大島清松園に行かれたと思いますが、去年行ったメンバーの方がいらっしゃったら、感想などを聞かせていただきたいです。

IKKU絆コミュニティ

大島清松園を訪問して、ハンセン病患者の話の直に聞く事ができ、そういう差別などをなくしていこうという考えをより深めることができたと思っています。

増田委員

一宮交番祭りでは、どのようなことをしているのですか？

IKKU絆コミュニティ

一宮中の生徒会長が、一宮交番で一日署長を務めるという事などを行っています。

田部委員

「熊本の震災のボランティア等に行かれた方の話を聞く」とありますが、この人達の手配はどのようにするんですか？

IKKU絆コミュニティ

太平洋学園コミュニティー協力隊の方で、昨年度熊本に視察に行かれた方がいますので、都合が合えば話を伺いたいと考えています。

尾崎委員

今回のメンバーの中に中学校 1 年生の方が何人か参加しているかと思うんですけど、小学校の時に一宮家おもてなし隊の活動を見て、憧れてこの IKKU 絆コミュニティに入られたんでしょうか？

IKKU絆コミュニティ

前は小学校との交流はあまりなかったので、憧れてではないと思います。

尾崎委員

そうですね。今回の活動で、小学生の皆さんと交流を行ったりとか、中学校のイメージ改善と書かれていましたので、そういう流れがあるのかなと思いました。ありがとうございます。

卯月委員長

計画書の中に「段ボールトイレ作り」と書いてありますが、これについて教えてください。

I K K U 絆コミュニティ

熊本地震や東日本大震災などの被災地ボランティアに行かれた方を講師として呼びして、被災地でどんなことが役に立てるかを聞きました。そこで段ボールトイレを作って配ったというお話を聞きましたので、作り方を学んで、自分達もいずれ起こる震災の時にそれを役立てたいと思って、やりたいと考えています。

【動画・歌で活動紹介】



「曲名 いのちの畑」

あさひの畑集まって みんなで草引き始めよう
畑を耕し 種まいて
みんなの力で育ててく
ちいきのみんな助かるよ
畑で取れた野菜たち
みんなで食べて生きていく
ぜったいみんなで助かるう！
あさひ あさひ いのちの畑

【以下、動画を活用したプレゼンテーション】

5月20日、芋の苗植え。まず、土をしっかり耕します。防災すけっと隊も来てくれたよ。芋の苗の植え方知ってる？こうやって植えるんだよ。やさしく土をかぶせて、OKです。肥料をあげて、水やりです。乾燥を防ぐ藁をかけました。さつまいも以外の野菜も育てています。ブロッコリー、かぼちゃ、トマト、スイカ、ナス、ピーマン、キュウリ、トウモロコシです。寝かせて植えたさつまいもの苗も、数日後にはしっかり根付きました。ありがとうございました。

【質疑応答】

宇賀委員

10月に「防災グッズづくり」が計画されていると思いますが、何を作るか決まっていたら教えてもらえますか？

旭地区防災食プロジェクト

ちょっと今考えています。

前田委員

畑は誰から借りているんですか？

旭地区防災食プロジェクト

旭小学校の畑を使っています。

増田委員

発表お疲れ様でした。11月にさつまいもの収穫とありますが、さつまいもはどれくらい収穫できるんですか？

旭地区防災食プロジェクト

結構、たくさんの量が収穫できます。

松田委員

こども申請書の自由記入欄に、「外国人の口に合う防災食を考えてみる」と書かれていますが、この外国の方というのはどこの国の方なのか教えていただきたいです。

旭地区防災食プロジェクト

久重地域に住んでいる外国の方です。

田部委員

7・8月にサバイバルキャンプを計画されていますが、こういった内容なんですか？

旭地区防災食プロジェクト

今、大人たちと考えています。

井上委員

活動を通して学んだことを防災新聞としてまとめて配布すると書いているんですが、旭全体とか小学校に配るとか、配布計画が決まっていたら教えていただきたいです。

旭地区防災食プロジェクト

旭地区のみんなに配ろうと考えています。

発表団体④ 太平洋学園コミュニティー協力隊

(学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～避難所生活を皆で考えよう～)

【パワーポイントでのプレゼンテーション】

皆さん、こんにちは。私達は太平洋学園高等学校の竹澤葉菜、森さとみ、氏部陽、吉田圭吾、稲本楓華、武市陸、前田美樹です。よろしくお願いします。

私達太平洋学園コミュニティー協力隊は、日常的な協力活動を展開し、地域との絆を深め、より安全に安心して楽しく暮らせる災害に強いまちをつくることを目標とし、防災の面でまちづくりに貢献することを目的として発



足しました。昨年度のこどもファンドの活動で、地震の被害にあった熊本県に実際に現地視察に行き、その時に被災された方々から体験した話を直に伺いました。

その後、私達に何かできないかと考え、今年度は去年被災地で知ったことを、さらに広く地域の人たちに伝え、みんなの防災に対する意識や、災害への対策を実際に行動することができる機会を作りたいと考えました。そこで、避難所など緊急避難生活を想定した疑似体験を自ら行うことで、いざという事態に何が不便で、どのような事が起こりうるのかを考え、そこから得た情報を地域に発信するという計画を立てました。この活動は1年計画で取り組みます。

今年度のメインとなる活動は、9月の避難所疑似体験学習をすることです。予定としては、太平洋学園高等学校の体育館を使って、寝泊まりや非常食の試食、防災袋の中身の改善について話しを進めたいと思います。12月には地域の方、保護者など多くの方が見に来てくれる学園祭で防災袋の取扱説明書や資料を配布する予定です。年が明けた1・2月には地域の方と学んだことを公民館で発表し、併せてリーフレットも作成する予定です。なお、1・2月に実施予定としていた防災袋の配布については、今年の5月に高知大学よりお越しいただいた先生による防災学習の際に、予算の都合もついたこともあり、全校生徒に配布済みです。

今年度の活動では、昨年度の活動を発展させて、緊急避難生活を想定した疑似体験をはじめ、自分で作れる防災袋の取扱説明書作成など、より自分達で実現できることをして、防災に対する意識を高めたいです。これらの防災・減災の活動を通して、災害に強いまちづくりに貢献すると共に、地域の皆さんとの交流の場を広げていきたいと思っています。最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

【質疑応答】

古谷委員

江ノ口防災まつりの時には、どんなことをするのでしょうか。

太平洋学園コミュニティー協力隊

防災まつりは、近くの小学校で開催されています。その時は、防災食に関することや避難所の運営ゲーム、防災すごろくなどを一緒に体験したり、ゲームの手伝いなどをさせていただきました。一般の方も参加できますので、ぜひ来てください。

前田委員

防災袋を配布すると言っていました、その防災袋は地域の施設に配布するんですか。それとも、地域の個人の家に配布するんですか？

太平洋学園コミュニティー協力隊

防災袋についてですが、5月に私達の何名かで、100円ショップで防災袋の中身を揃えて、既に配布済みです。それを基に「防災袋を作る際にこういうのがあったらいい」とか「こういう事に気を付けたらいい」という声がありましたので、防災袋の取扱説明書を作って配ること予定にしています。

井上委員

10月に着ぐるみ作成を予定されていると思いますが、いったい何の着ぐるみを作るのか教えていただけますか？

太平洋学園コミュニティー協力隊

着ぐるみはちょっと難しいかなと思ったので、今画面に映ってるヘルメットをかぶった女の子、「あんこちゃん」っていうんですけど、あんこちゃんの仮装みたいなものをできればなと思っていて、その小物を揃えたいと思っています。

田部委員

あんこちゃんの衣装は具体的にどういった機会を使うのでしょうか？

太平洋学園コミュニティー協力隊

学園祭などでリーフレットを作成して配ったり、パネルを展示したりする機会があります。また、我が校では体験発表会というものが2月にありまして、その時に太平洋学園コミュニティー協力隊として発表する際に、使いたいなと考えています。

松田委員

この活動を通して、皆さんはどういうふうにもちに貢献できたらいいなとお考えでしょうか。

太平洋学園コミュニティー協力隊

本校では保護者の方や地域の方をお呼びする機会が多いので、そういった周りの人達を巻き込んで防災・減災に努めていけたらと思っています。また、みんなで協力していけるように、太平洋学園コミュニティー協力隊の人数も増やしたいですし、我が校には他にもボランティアサークルがいくつかあるので、そういった所で発展させていけたらなと思っています。

梶委員

メンバーを増やすために、どんな工夫をされるんでしょうか？

太平洋学園コミュニティー協力隊

掃除やティッシュ配り、募金活動などを行っている他のボランティアサークルがあるんですが、今までですと、その中でも協力的な子やもっと活動したいという子に声をかけて増やしたりしていました。やる気のある子を増やしていけたらなと思っているので、よく清掃に来てくれる子などに声をかけるようにしていきます。

【ピアノ演奏の後、模造紙を使ったプレゼンテーション】



皆さんこんにちは。虹を見る子どもたちプロジェクトです。この企画は多くの子ども達に夢を大切にしてもらい、夢を持ってもらうために考えました。

ところで皆さん、高知県の若者の人口を知っていますか？昔は26万人いたところ、今はなんと8万人なんです。その理由は少子高齢化、そのために若者は介護をするようになり、夢を持てなくなってしまいます。そのため、夢を持つことが大切

になってきます。どんどん光を届けようという事で、この世には健康な人だけではありません。障害を持っている方もたくさんいます。今回、初の試みとしてこの「UDトーク」、この最新のアプリを使います。虹プロのスタッフには聴覚障害のスタッフがいるんですけども、僕が喋ったあと、スマホに文章として出てくる、これを言語のバリアフリーとして、虹プロは応援していきます。夢・虹ということは夢と希望、少しでも夢を持つ子どもが増えてほしい、夢が希望につながる、色々なところに夢の懸け橋を、子どもたちや子どもたちの未来に為にとということで、これを理念とさせていただきます。

次に虹のパビリオン、虹のイベント内容を説明します。まず虹ということで、七つのブースに分けます。

- ①黄色は子どもの知恵、「フリーマーケット」。
- ②オレンジ色は「カクテルバー」。プロのバーテンダーにオリジナルカクテルを作ってもらいます。その名も「虹の彼方に」。大人の方、安心してください。ノンアルコールです。
- ③紫色は宿題・手話教室・読み聞かせ。
- ④緑色は子ども食堂「がじゅまるの木」。
- ⑤水色はプレイブース。
- ⑥赤色は体験ブース。
- ⑦青色はフリースペースとなっています。

そしてメインステージでは、僕もピアノを演奏します。高知にも才能溢れる子どもたちがたくさんいるので、たくさん光を浴びてほしいと思います。皆さんの心にもたくさんの虹がかかりますように。それでは虹の下で待っています。

【質疑応答】

森本委員

メンバーの皆さんはそれぞれ学校が違うんですが、どのようにして出会ったんでしょうか？

虹を見る子どもたちプロジェクト

この二人は僕と同じ南中学校の同級生です。もう一人は僕のご近所さんで、町内会でよく遊んだりしていたので出会いました。他にもまだメンバーがいるんですが、どんどん仲間を募集していきたいと思います。

井上委員

発表を聞いていて、ちょっと泣きそうになりました。この「こじゃんと広場」というスペースでイベントを行うことにしたと書いてあるんですけど、なぜこの場所にしたのか気になったので、教えてください。

虹を見る子どもたちプロジェクト

僕は小学校1年生の時からピアノライブをしてるんですが、この「こじゃんと広場」は昔からお世話になっていて、よくライブをさせていただいていました。虹プロをできる十分なスペースがありますので、この場所を選びました。

増田委員

すごいパフォーマンスで、びっくりしてしまいました。自由記入コーナーの方に、「色々な人、夢を叶えている人に来てもらって講義をしてもらう」書いてありますが、夢の講義というのは具体的にどのような内容を考えているんでしょうか？

虹を見る子どもたちプロジェクト

「夢を叶えているということは、自分の夢が叶っている」ということです。よく僕の学校にも夢を叶えている人が講義に来てくださって、「夢を叶えるためどうしたらいいか」、例えば「自分のやっている仕事はこんな仕事だ」などの話を聞いたりします。子どもたちに夢をもってもらえるような、そういう講義を行えたらと思っています。

発表団体⑥ AOYAGI 地域盛り上げ隊

～過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をよみがえらせよう！～

【パワーポイントでのプレゼンテーション】



これから AOYAGI 地域盛り上げ隊の発表を行います。AOYAGI 盛り上げ隊のテーマは「過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をよみがえらせよう！」です。絶海池というのは青柳中学校のすぐ側にある大きな池です。まずこの写真を見てください。絶海池はたくさんのゴミが捨てられていて汚く、匂いなども気になります。また、絶海池にはたくさんの生物が住んでいますが、ゴミによって過ごしにくい環境となっています。絶海池は昔からこの地域にあり、私達にとっては当たり前の存在です。また、ほとんどの生徒が毎日の通学でこの絶海池の側を通っています。私達は以前から、いつもゴミが浮かんでいる絶海池を何とかしたいと思っていました。そして今回こうちこどもファンドに応募し、地域の皆さんと協力して、絶海池をきれいにしたいと思いました。

青柳中学校のある五台山地区はライオン宰相として知られる浜口雄幸や、日本の植物学の父と呼ばれる牧野富太郎さんを生んだ素晴らしい地域です。また、竹林寺や牧野植物園、五台山展望台などさまざまな観光スポットもあり、県外の方々も多く訪れます。県外の方やお遍路さんが汚れた絶海池を見て、どう思うでしょうか。この素晴らしい地域にふさわしい、美しい絶海池を取り戻すことで地域の方はもちろん、他の地域や県外からこのまちを訪れた人も清々しい気分になり、住みやすい・また来たいと思えるまちになるのではないかと思います。たくさんの人を笑顔にして交流していくために、私達はこの活動を行っていきます。

それでは、清掃区域について説明をします。絶海池はとても広く、全ての場所を一度にきれいにすることは難しいと思いますので、今年はこの印で囲んである学校付近の清掃を行いたいと思います。

次に活動スケジュールです。7月は絶海池新聞を作ります。8月はこの絶海池新聞を配布し、活動についての説明や参加協力を呼び掛けていきます。9月はより多くの人にこの活動を知ってもらえるよう、アピールしていきます。10月はいよいよ清掃を行います。参加してもらった人がゲーム形式で楽しみながら清掃活動ができるように計画しています。清掃が終わった後は、きれいになった絶海池を紹介し、これまでの新聞と合わせた冊子を作って配布したいと思います。僕たちの住む高須・五台山地区は畑や田んぼが多く、自然がいっぱいです。この美しい自然を守り、地域の皆さんが笑顔で気持ちよく暮らせるまちを目指していきます。これで、AOYAGI 地域盛り上げ隊の発表を終わります。

【質疑応答】

古谷委員

絶海池での清掃活動を「ゲーム形式」で行うと書いてありますが、これはどの部分がゲーム形式なんでしょうか？

A O Y A G I 地域盛り上げ隊

まだ詳しいことは決めていませんが、「各チームで拾ったゴミの重さや大きさを分けて、一番重いゴミを集めたチームが勝ち」にするなどを考えています。

増田委員

新聞配布についてですが、配布場所などは決まっていますか？

A O Y A G I 地域盛り上げ隊

地域の小学校やふれあいセンターに配布したり、校内・地域の掲示板などに掲示する予定です。

宇賀委員

Tシャツのデザインは自分たちで決めるんでしょうか？

A O Y A G I 地域盛り上げ隊

生徒会の皆で話し合っ、デザインを決める予定です。

卯月委員長

この活動をはじめて、この絶海池がきれいになるだろうというのは、おおよそ何年ぐらい先を想定していますか？

A O Y A G I 地域盛り上げ隊

3年くらいを考えています。

【パワーポイント・模造紙を使って発表】



これから natural チームの発表を始めます。皆さん、久重地域を知っていますか？高知市の真ん中に位置し、標高 300 メートルの山の中にある自然豊かな地域です。皆さん、右の窓の後ろの方を見てください。あの緑の山の上が、そう久重地域です。

久重の自然ってどんなものがあるの？鏡川の源流に位置し、虫がたくさん飛んでいたり、春には山菜やタケノコが取れるよ。ほかにも、お米や四方竹も有名だね。

ほかに自慢できるものはあるかな？久重まちづくり計画を見てみよう。その本はどうしたの？おとこの 6 年生や地域の村の人が作った久重の本だよ。僕持ってるよ。私も持ってるよ。僕も持ってるよ。そんな本があるの？どれどれ。久重のまちづくり計画の、久重の魅力再発見プロジェクトの中に色々な魅力が書かれています。たくさんの魅力があるね。自分達でも調べてみようよ。何にする？じゃあ、プロジェクトの中の「食」にしない？みんなで何かを作って食べようよ。家の近くに七草が採れる場所があるからみんなで探しに行かない？私の知ってる人に竹でお箸やお椀を作れる人がいるから、習いに行こうよ。じゃあみんなで野草を採って調理して、自分達で作った食器を使って食べようよ。他にも有用植物があるよ。有用植物って何？有用植物とは人間にとってはなくてはならない役立つもので、昔から食べるのはもちろん、薬になったりもします。植物は日本で約 6 千種類ありますが、高知県には半数以上の 3 千種類があり、そのうち 350 種類は有用植物といわれています。私たちの久重地域は有用植物の宝庫と言われるほど多く、希少植物や絶滅危惧種にも指定されています。

じゃあそれにしよう。みんなで里山を探検しながらしたら楽しそうじゃない？いいね、有用植物を使ってオリジナルレシピを作るのどう？そうしよう！これで natural チームの発表を終わります。

【質疑応答】

田部委員

活動計画の 2 月の欄に「レシピをまとめる」とありますが、このまとめたレシピは今後どうするんですか。

natural チーム

私たちの地域の人に配ったり、できればまちの人達にも配ったりできればと思っています。

吉本委員

「山菜を調理する」と書いてありますが、具体的にこんなものを作ってみようという考えがあったりしますか？

natural チーム

山菜で天ぷらやおひたしなどの食べ物を作ろうと思っています。

松田委員

皆さんはこの活動を通して、久重のまちがどんな風になったら嬉しいなと思いますか？

natural チーム

久重のまちを市街地の人にもっと知ってもらいたいし、久重地域をいいところにしていきたいです。

田部委員

再び活動計画になるんですが、7～9月や10～11月に野草探しを計画していると思いますが、期間が長いので野草探しを一日だけ行うのか、それとも定期的に行うのか知りたいです。

natural チーム

植物は一定の期間しか食べられないというか、硬くなってしまうものもあるので、できれば定期的に行けるようにしたいと思っています。

井上委員

活動経費の欄で、チラシ・ポスター・リーフレット代とありますが、このチラシとかっていうのは何を広告するためのチラシですか？

natural チーム

久重の事を伝えるために使います。

宇賀委員

活動内容を見ていると、竹のお椀やお箸を作るとありますが、それはどのタイミングで行いますか？

natural チーム

1月7日くらいに七草フェスタというお祭りみたいながあるので、そのときに竹でお箸やお椀を作りたいと思っています。

増田委員

2月にレシピ案をまとめるというのがあるのですが、何品くらいまとめる予定でしょうか？

natural チーム

それについてはまだ考えていなくて、未定です。

3 こども審査員による一次判断

こども審査員9名が「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」の3区分で一次判断を行いました。

こども審査員が審査の際に何を重要と考えるかの評価ポイントは、公開審査会の1週間前に開催した「事前研修会」において、こども審査員が全員で話し合い、決めた項目を使用しています。

評価ポイント

- ① こどもたちが中心となって活動できるか
- ② 計画性をもって先のことを考えているか
- ③ 地域の人々のために役に立てるか



▲事前研修会で評価ポイントを決定した際の様子。

【一次判断の結果】

発表 No.	団体名	一次判断		
		いいね!	もう少し質問がある	もうちょっと!
1	おおつつ子	●●●●●●●●●●		
2	IKKU絆コミュニティ	●●●●●●●●●●	●	
3	旭地区防災食プロジェクト	●●●●●●●●	●●●	
4	太平洋学園コミュニティ協力隊	●●●●●●●●●●		
5	虹を見る子どもたちプロジェクト	●●●●●●●●●●	●●	
6	A O Y A G I 地域盛り上げ隊	●●●●●●●●●●	●	
7	natural チーム	●●●●●●●●●●	●●	

4 審査員による公開審議

【進行：卯月委員長】



3項目に分けて、1次判断をこども審査員が行いました。「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」の3つですが、ほとんどの団体が「いいね」の欄にシールが張られていますね。それでは、「もう少し質問がある」にシールを貼っていただいている審査員の方を中心に、議論をしていきたいと思います。

公開協議① おおつっ子

卯月委員長

おおつっ子に関しては全て「いいね」にシールが貼られていますので、大人審査員の方を含めて、せっかくの機会ですので、質問以外でもご意見があれば、お願いします。

谷脇委員

これまでの活動の中で、「地域との繋がりがちょっと弱かった」ということを課題として考えられたとのことですが、そのように思った理由と、これから地域とつながりを強くしてどのようにしていきたいかを考えていければ聞かせていただけますか。

卯月委員長

おおつっ子の活動は2年目になりますので、過去の活動の成果や反省が今回の活動に繋がっているんだと思います。今の質問に対して、おおつっ子さん、ご回答をお願いします。

おおつっ子

地域で「大津まつり」というお祭りがあるんですが、去年は地域の人や私たちの学校の関係者しかいませんでした。大津まつりをたくさんの方が楽しむことができるお祭りしていきたいと思っているので、そこを改善していきたいと思っています。



松田委員

防災に関して色々な取り組みがあると思いますが、どうやって「防災劇」という方法にたどり着い

たんでしょうか？自分は防災劇というのを見たことがなかったので、教えていただきたいです。

おおつつ子

劇にしたのは、大津中の生徒全員が明るい印象があったからです。また、畠中さんにも色々アドバイスをいただいて、その中で一番いいなと思ったのが劇だったので、劇を作って、地域の人に喜んでもらえたらいいなと思い、劇にしました。

卯月委員長

先ほどのプレゼンテーションも劇仕立てでしたので、とても分かりやすかったですよね。およそ何分くらいの劇になるんでしょうか？まだそこまで決まっていますか？

おおつつ子

だいたい10分くらいを考えています。

卯月委員長

結構長いですね。衣装なども作るんでしょうか？

おおつつ子

作ります。

卯月委員長

本格的ですね。楽しみにしていきましょう。

公開協議② I K K U絆コミュニティ

卯月委員長

それでは、2番目のI K K U絆コミュニティに移ります。森本さんが「質問したい」にシールを貼ってくれましたので、お願いします。

森本委員

活動の内容で、8月、10月、1・2月に3回「新聞配布」がありますが、これ以上の回数を配布することは今のところ計画していないんでしょうか？

I K K U絆コミュニティ

活動をして新聞を作るため、配布はその3回だけの予定です。

山川委員

今日発表を聞いていて、去年熊本に視察に行った太平洋学園コミュニティー協力隊に話を聞くという計画があったと思います。発表する団体が横のつながりを活動に取り入れたのは初めてだと思うんですが、このアイデアに辿り着いた経過などを教えて下さい。

IKKU絆コミュニティ

以前、畠中さんにアドバイスをいただいた際に、そういうアイデアをいただきました。

卯月委員長

そうなんですか、アドバイスは重要ですね。アイデアを頂いても、最終的に「やる！」と決めるのは皆さんですからね。ありがとうございました。他に質問がなければ、私から1つ質問させてください。「道徳かるた」は昨年も出ていたような気がするんですが、これはまだ完成していないということでしょうか？それとも、また新しい物を作るということでしょうか？

IKKU絆コミュニティ

2年掛かりで、やっと完成する予定です。

卯月委員長

今はどういう段階なんでしょうか？例えば、読み札などができたような段階ですか？

IKKU絆コミュニティ

原画と読み札ができています。

卯月委員長

そうなんですか。では、あとは印刷をするのでしょうか？それとも、手書きで仕上げるのでしょうか？

IKKU絆コミュニティ

印刷です。

卯月委員長

分かりました、3月の発表会をまた楽しみにしています。もう1点だけ確認ですが、「段ボールトレ」は便器のようなものがあるって、その周りを囲むものが段ボールなんでしょうか？それとも、全て段ボールなんでしょうか？

IKKU絆コミュニティ

便器も含めて全て段ボールです。

卯月委員長

便器も段ボールなんですか。そういうキットみたいなものがあるのでしょうか？

IKKU絆コミュニティ

日赤の方に教えていただいて、昨年作ったんですが、今年はそれを小学校で広めていきたいなと思っています。段ボール2つのセットとガムテープがあれば作れます。

卯月委員長

勉強になりました、ありがとうございます。



公開協議③ 旭地区防災食プロジェクト

井上委員

活動内容の7・8月の欄に「地域の人とバーベキュー」と記載があるんですが、地域の方々というのは団体に声を掛けていくのか、それとも地域の方々から参加者を募るのか、その辺りは決まっていますか？

旭地区防災食プロジェクト

団体に声を掛けていこうと思っています。



松田委員

この活動を通して、皆さんは旭地区をどんなまちにしていきたいと思われていますか？

旭地区防災食プロジェクト

誰とでも挨拶などができるまちにしたいなと思っています。

松田委員

ありがとうございます。団体間の横のつながりという話もあったかと思いますが、natural チームも「食」をテーマにした活動だったので、ぜひ横のつながりを活かせるのであれば、チームとチームが連携して活動ができれば、おもしろいんじゃないかなと思いました。

卯月委員長

松田委員が今お話された「食」についてですが、すでに3年ほど前に「行川地域」でもお年寄りなどから聞き取りをしてレシピ集を作っていますので、そういったことも参考にさせていただいたら、どんどん情報が蓄積されていくんじゃないかなと思います。

森本委員

発表の中で防災すけっと隊の話が出たと思いますが、防災すけっと隊とはどういう方たちなんでしょう？

旭地区防災食プロジェクト

高知大学で防災活動を行っている人たちです。

卯月委員長

梶委員も高知大学ですが、関係があったりされるんでしょうか？

梶委員

私は直接の関係はありませんが、防災すけっと隊は高知県内で防災の意識を高めるために学校や地

域の団体と連携しながら活動している大学生たちです。

卯月委員長

高知らしい取り組みですね。ありがとうございます。

公開協議④ 太平洋学園コミュニティー協力隊

卯月委員長

全ての方が「いいね」にシールが貼られていますので質問がないかもしれませんが、大人委員の方も含めてどうでしょうか。1つ私から質問ですが、避難所運営疑似体験学習というのは、これまでにやったことがあるのでしょうか。それとも、今回初めてやろうという提案なんでしょうか。

太平洋学園コミュニティー協力隊

今回が初めてなので、まだどうなるか分かりませんが、皆で考えていきたいと思っています。

卯月委員長

例えば、既にやったことがある地区の方などからお話を聞く予定がありますか。

太平洋学園コミュニティー協力隊

私たちが考えようと思っています。

卯月委員長

分かりました。それと「防災袋に入れるものを100円ショップで揃えた」という話に興味を持ったんですが、例えば皆さんが考えた防災袋に入っている物をいくつか紹介してくれませんか。

太平洋学園コミュニティー協力隊

例えば、ウェットティッシュや黒い袋などを入れました。黒い袋は段ボールでトイレなどを作る際に使うことができますし、他のことにも使えるのでいいなと思い、買いました。あとは、水をかけると大きくなる圧縮タオルなども買っています。



公開協議⑤ 虹を見る子どもたちプロジェクト

松田委員

発表を聞いていてすごく夢のある企画だなと思ったんですが、実現させるために時間と手間がすごくかかるんじゃないかと思いました。一から子どもがやると難しいことなんじゃないかなと思ったんですが、全て子どもたちでやるのか、その辺りを教えてください。

卯月委員長

申請書に協力団体の名前がありますので、その団体との関係を教えていただければ分かりやすいかもしれません。

虹を見る子どもたちプロジェクト

「NPO こうち音の文化振興会」については、自分がプレイヤー会員として、高知を音楽で豊かにするような活動をしている団体です。またこども食堂をやっている「がじゅまるの木」という団体さんがいるんですが、その人たちも協力してくれて、子どもだけではなく、大人の方にも協力をしてもらおう予定です。



卯月委員長

「NPO 住環境福祉ネットワークこうち」という団体もお付き合いがあるんでしょうか。

虹を見る子どもたちプロジェクト

はい。自分のお母さんが関係のある団体です。

井上委員

私と松田委員が通っている高知商業高校でも、毎年おまちで2日間イベントをやっているんですが、正直とても忙しいので、この活動も大変だと思いますが頑張ってください。活動内容でフライヤー作成があると思いますが、その内容はもう決まっている状態なんでしょうか。

虹を見る子どもたちプロジェクト

まだフライヤーの内容は決まっていません。これから作っていこうと思っています。

卯月委員長

活動内容に「城主」や「7色のお城」とありますが、これについて説明をお願いしますか。

虹を見る子どもたちプロジェクト

お城というのはテントのことです。虹は7色ありますので、7つのテントを運営するリーダー（城

主)を募集していきたいと考えています。

卯月委員長

少しとさっこタウンに似てるイメージでしょうか？

虹を見る子どもたちプロジェクト

そうですね。昔からとさっこタウンに参加していたので、そういうこともあって似ていると思います。

尾崎委員

7色のお城をそれぞれ作るということですが、「こどもリーダーを1つのお城につき、2人ずつ置く」ということで、今後合計14人のメンバーを集めることが必要だと思うんですが、その辺りはどんな状況でしょうか？

虹を見る子どもたちプロジェクト

現時点では4人くらいしか集まっていますが、チラシやマスコミなどにもお願いして、集めたいと思っています。

尾崎委員

メンバーは高知市内の色々な所から集めるんでしょうか。それとも、近くのお友達などにも声を掛けるんでしょうか。

虹を見る子どもたちプロジェクト

近くの友達や学校などにチラシも配って、集めたいと思っています。

公開協議⑥ A O Y A G I 地域盛り上げ隊

井上委員

活動内容の「新聞を冊子にする」という記載について、新聞発行は1回しか書いてないと思いますが、毎月1号ずつ出していくとか、そういった活動を予定しているんでしょうか？

A O Y A G I 地域盛り上げ隊

活動内容に書き忘れていたんですが、9月にもう1回発行する予定です。



卯月委員長

どれだけ多くの方が協力してくれるかがこの活動のポイントになると思います。広報や呼び

かけにも工夫が必要だと思いますが、現段階で考えていることがあれば教えてください。

A O Y A G I 地域盛り上げ隊

8月に開催される地域のお祭りで宣伝したり、9月頃にテレビや新聞の方たちに協力してもらって呼びかけをしていきたいと考えています。

卯月委員長

ありがとうございます。昔、商店街のシャッターに書かれた落書きを消すために、こどもファンドである団体が活動したことがありました。実際活動が始まると、NHKがずっと取材をしてくれて、商店街は当然うれしいんですが、配電盤にも落書きがあったので四国電力も協力してくれました。それから、落書きを消すスプレーの会社も高知にあったので、少し安く仕入れてくださるなど、高校生の呼びかけによって、ものすごい人たちが協力してくれたことを思い出しました。この活動もそんな形で発展していけば、高知の人たちもきっと喜ぶんじゃないかと思います。

公開協議⑦ natural チーム

井上委員

「久重まちづくり計画」については、現在の中学2年生も作成に関わったということですが、この計画というのは今回の活動とはまた別のものなんでしょうか。

natural チーム

別の活動です。

井上委員

では、「久重まちづくり計画」について、少し教えていただきたいです。

卯月委員長

これは大人が構成員になっている地域連携協議会がつくった計画ですので、サポーターしてくださる大人の方のコメントでも構いませんので、この計画が作られた経緯やこれからどんな活動を行っていくのか、考えがあれば教えて下さい。

natural チーム

久重のまちづくり計画の「久重の再発見プロジェクト」は久重の6つの魅力、「光・食・花・人・古・祭」の魅力を再発見しようとプロジェクトです。

卯月委員長

ありがとうございます。地域内連携協議会は高知市がお手伝いして作られた計画だと思いますので、谷協委員から補足があればお願いします。

谷協委員

地域内連携協議会というのは、地域にある色々な活動をしている団体が集まって、地域の中での課

題に対して解決策を見出そうとしている団体です。今回の natural チームの活動は、そういった久重地区の連携協議会がつくった「久重の再発見プロジェクト」というものがある、それを子どもたちが取り組んでいこうとしている活動です。

natural チーム

(大人サポーターよりコメント) フォローをしていただきまして、ありがとうございました。久重地域のまちづくり計画ですが、3年ほど前に久重地域連携協議会が立ち上がりまして、それまでは各町内会等で行っていた活動の一つにまとめて、久重地域の良いところや課題を皆で考え、先ほど子どもたちが紹介した冊子ができ上がりました。その中には、当時小学校6年生(現在は中学2年生)の子どもたちも一緒に入っていて、未来の私たちがどんなことをしているか、先のことまで考えてできた計画です。会場の後ろにも冊子を置いていますので、よろしかったらぜひご覧ください。

卯月委員長

計画づくりにも子どもたちが参加したんでしょうか？

natural チーム

はい、授業の一環でも参加しました。

松田委員

昨年度まで「高知市立久重小学校6年生」という団体で活動されていた方もいらっしゃるかと思いますが、これまでどういった活動をされてきたのか教えていただきたいです。

natural チーム

昨年までは2つのチームに分かれて、「防災」と「国際的なまちづくり」をテーマにして活動しました。防災のチームでは、逃げ地図づくりや防災食の試食会を開いて、防災食を学校に届ける活動をしました。国際的なまちづくりのチームでは、久重地域にいる外国の方には外国の料理や遊びなどを教えてもらい、また久重地域の方には久重の食材や日本の遊びを教えてもらい、交流会を開きました。さらに、久重地域の食材を使って、外国料理を自分たちでアレンジしたレシピを作って配布するという活動をしました。

松田委員

ありがとうございます。もう1つ質問ですが、今回は「食」にテーマを絞り、特に「野草」に限定されるということですが、「食」に限定した経緯を教えてください。

natural チーム

久重地域の皆が集まったときに、「光・食・花・人・古・祭」の中でそれぞれ良いところについて



皆で相談した結果、今年は「食」について皆で取り組んでいこうと決めました。「食」の中でも有用植物に限定した理由は、久重地域は有用植物の宝庫といわれるほどたくさんの種類があり、それは他の地域にはない久重の自慢できるところだと思ったからです。

卯月委員長

ありがとうございました。7つの団体の「もう少し質問がある」にシールを貼った方から質問をいただきました。これで最終判断になりますが、ほかには質問はよろしいでしょうか。では、こども審査員・大人審査員による公開協議を終了したいと思います。ありがとうございました。

5 審査結果発表

審査結果発表 吉門審査副委員長

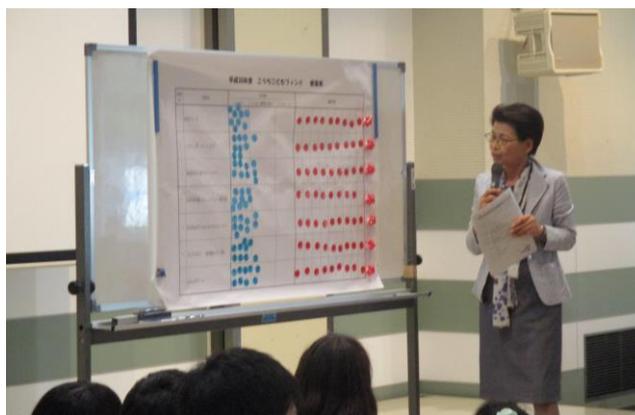
吉門でございます。皆様、お疲れ様でした。それでは、審査結果を発表させていただきます。

※こども審査員の過半数（9名中5名以上）が助成すると判断した場合に助成決定。

助成団体	助成金額	得票数	助成可否
おおつつ子	200,000 円	9	合格
I K K U 絆コミュニティ	200,000 円	9	合格
旭地区防災食プロジェクト	200,000 円	9	合格
太平洋学園コミュニティー協力隊	200,000 円	8	合格
虹を見る子どもたちプロジェクト	200,000 円	9	合格
A O Y A G I 地域盛り上げ隊	200,000 円	9	合格
natural チーム	200,000 円	9	合格

はい、皆さん合格です！皆さんの活動のテーマや発表に、こんなにたくさんの「いいね」をいただきました。

今日の感想ですが、どの団体も3分間の発表の間で「皆に伝えよう」という気持ちを感じました。初めてですので難しいところもあったかと思いますが、3月の発表会では皆さんが自信満々で輝いて、活動報告をして下さるのを楽しみにしています。活動をする中で大変なこともたくさんあると思いますが、それをやっていくことが皆さんの成長に繋がると思います。また皆さんとお会いできるのを楽しみにしていますので、頑張ってください。おめでとうございます！



こども審査員からの感想発表

【宇賀委員】

全団体、助成おめでとうございます。今回は発表のクオリティーがすごく高くて、何を質問したらいいのかわからないくらいの完成度でした。3月の発表会を楽しみにしています。お疲れ様でした。



【増田委員】

発表お疲れ様でした。発表時間は3分間でしたが、どのチームも言いたいことを全て言い切っていたのですごいと思いました。お疲れ様でした。



【前田委員】

こういう審査とか大きい活動をやったことがなかったけれど、自分から質問ができて良かったと思っています。助成が決定された団体の皆さんは、これから地域をどんどん良くしていくために頑張ってください。ありがとうございました。



【古谷委員】

どのチームもクオリティーがすごく高くて、質問が思い浮かばなかったけれど、3分間のプレゼンテーションで聞くことがあまりなくなっていたので、すごく良かったと思いました。



【森本委員】

7団体の皆さん、お疲れ様でした。おめでとうございます。私は毎年うちこどもファンドの審査員をしていますが、今年が特におもしろかったです。おもしろかったというのは、つまりは印象に残りやすい団体だと思うので、皆さんには自信を持っていただきたいです。3月の報告会を楽しみにしています。お疲れ様でした。



【田部委員】

皆さん、発表お疲れ様でした。そして全団体の助成決定、おめでとうございます。一番印象に残った団体が5番目の虹を見る子どもたちプロジェクトです。このグループはとても大きな計画で、戸惑うこともあるかと思います



が、これから地域のために頑張ってください。他の団体もこれから1年間大変なことがあるかもしれませんが、皆さんで協力して乗り切って、地域に貢献できる活動になっていることを期待しています。ありがとうございました。

【吉本委員】

皆さん、助成決定おめでとうございます。今回の発表を聞いていて、皆さんすごく分かりやすいプレゼンテーションをしてくださり、ありがとうございました。3月の報告会を楽しみにしています。



【松田委員】

7団体の皆さん、お疲れ様でした。初めてこの活動に参加させていただいて、プレゼンテーションを聞いたときに「ここまでできるんだ。すごいな」と思いました。これから1年間活動をしていく中で、迷ったり悩んだりされると思いますが、それを乗り切ってどんな活動になっているかを3月の発表会で私たちは楽しみにしています。今日はお疲れ様でした。



【井上委員】

皆さん、発表お疲れ様でした。助成決定、おめでとうございます。私も初めて審査をさせていただきましたが、全団体のプレゼンテーションのレベルがとてつもなく高く、ぜひ高知商業に来ていただきたいなと思いました。全チームとも、地域の課題や自分の夢を見つけて、それをどうやったら叶えられるのかを考えて活動計画を立ててきているのかが、すごく伝わりました。3月の発表会では、結果だけではなく、個々が思ったことや感じたことを聞けることを楽しみにしています。今日はありがとうございました。



こどもファンドアドバイザー・こども審査員サポーターからの感想発表

【島中こどもファンドアドバイザー】

皆さんお疲れ様でした。まず僕はほっとしています。アドバイスに入った団体の皆さんと一緒に考え方を整理しながら、皆さん方でじっくりと考えた内容を発表する姿や、熱い思いを持って質疑に答える姿を見て、感動しました。そして、本当に安心しました。先ほどこども審査員の皆さんがお話しされたように、これから2月まで活動してい



く中で、自分たちが思った通りに進まなかったり、困ったことにぶつかったりするなど、悩みが出てくることは必ずあるんじゃないかなと思います。また、そのときにはいつでもお声を描けてくださったら、一緒に悩みにいきますので、そのときに一緒に考えましょう。今日は本当にお疲れ様でした。

【利根こども審査員サポーター】

皆さん、お疲れ様でした。子どもたちのパワーはすごいですね！この会場で、目に見えない輝きのようなものを今日は感じさせていただきました。今日ここで一生懸命発表された皆さん、そしてそれを受け止めよう・応援しようとした審査員の皆さん。これからの活動が本番にはなるとは思いますが、こうやって考えていくことが皆さんの大きな力になっていくんだろうなと期待しています。今日はありがとうございました。



講評 卯月審査委員長

こうちこどもファンドは7年目を迎えました。着実に「定着してきたな」という印象があります。昨年も申し上げたんですが、この高知の経験を機会があるごとに、色々なまちにいてお話をしています。その結果、今日も他の自治体や財団の方が何人か会場に来てくださっています。その何人かと休憩中にお話をしましたが、「聞きしに勝るすごいものですね」と仰っていました。何度かこの会場に来られているこども・大人の方に見てみたら、もうこれが当たり前になっているというのが、これが高知のすごさなんだと思います。最初にこの企画を考えた際に、「こどもが主体的な活動は有り得るだろう。ただ、審査は無理だ」という話を、市役所の方としました。今からすれば信じられないかもしれませんが、実は日本全国でこういう話をしても、「高知は進んでいるからできるかもしれませんが、私たちのところでは無理です」と今でも言われます。でも、僕はそんなことはないと思っています。今回のこども審査員は9名で、5人が今年始めて審査員になった方ですが、素晴らしい形で継続していているなと思います。1週間前には、この申請書を全て読み込んで、「こんな質問をしよう」と付箋をたくさんつけて、大変な準備をしてくれているんですね。「我々大人が期待をすれば、必ずこどもたちは答えてくれる」ということを、僕は毎年6月に体験して、新たな気持ちになることができます。こどもを信じよう、こどもと一緒にまちづくりに取り組んでいけばまだまだ日本は捨てたもんじゃないと感じています。高知の未来は本当に明るいですね。



それでは、今日いくつか思ったことを申し上げます。例年、土地柄ですが、防災に関わる活動がと

も多いですね。今年も7団体のうち、4つが防災に関わるものでした。このほかでいえば、環境や食といったテーマで、これも高知らしいものだと思います。ただ、今日一番驚いたのは、「虹を見る子どもたちプロジェクト」でした。かつて、こども劇場の活動をしていらっしゃる団体はありましたが、それとはまた違った形で、タイトルから高知らしいなと思いました。限られたプレゼンテーションの3分間の中で、活動に対するパッションがとても伝わってきました。「どんなことをやるのか詳しくはわからないけど、とてもおもしろそうなことをやるんだ」ということが伝わってきて、ぜひこれからの活動に期待をしています。

さらに、今年3月に初めて新しい形で活動発表会を行いました。他の団体から学べることはどんなことがあるか、また何か他の団体にどんなことを聞いてみたいか、といった内容でやり取りを行いました。しかし、「横の連携」というものが少し進んだのかなと思いました。「太平洋学園や久重地区の経験について話を聞いてみたい」など、他の団体からこういう意見が出てきたことは、こどもファンドを7年間続けてきた成果なんじゃないかなと思います。他の自治体でもこれに近いことをやっていますが、どちらかというと助成が決定して、ばらばらに活動して、1年後に成果の報告をする、そういった活動団体同士があまり連携しないようなケースが多いです。でもそうではなくて、隣の活動の良いところを学び合おうという姿勢が出てきたと感じましたので、その点を評価したいと思います。

さらにもう1つだけ、行政が主導して策定したまちづくりの計画などは、ややもすれば「絵に描いた餅」のようになりがちです。ところが、久重地域については、市と一緒に住民が作った計画を、子どもたち自らが「大人たちと一緒にやっていくんだ」と力強く発言していたことに、感動しました。これは、副市長がご挨拶で仰られていたように、高知はコミュニティ活動に関しては日本で一番歴史のある都市なんです。長い歴史の中でその取り組みが見える形になってきたということは、これもこどもファンドの成果なのではないかと思います。

最後になりますが、「こども審査員は成長し続けている」ということを、今日も感じました。こども審査員を卒業した子どもたちが、今日も4・5名会場へ来てくださっています。審査員を嫌々やっていたり、言われたからやっていたとすれば、わざわざ今日この会場に来ませんよね。このこどもファンドが活動している団体だけではなく、審査員にとっても小さなコミュニティや居場所になっている可能性もあって、「高知が大好き」という気持ちが確実に広がりつつあるということ、ぜひ申し上げたいですね。そのことが、冒頭で申し上げた「こどもが審査できるのか」という疑問を持ちながら、「やってみよう」と取り組んだ結果に繋がっているんだと思います。そういった意味で、7年目を迎えたこうちこどもファンドは確実に次のステップに進んでいます。まちづくりの具体的な活動をする中で、学んで、高知を良くしたいと思う子どもたちが増えていく、さらに最後にはこどもたちの活動を支援する大人たちも学んでいるんだと思います。僕が忘れてしまったこどもたちの柔軟な発想や言葉を学ぶために、僕も毎年ここに来ています。こどもファンドは今後益々発展していくんだろうと思いますし、期待もしています。本日は皆さん、ご苦労さまでした。ありがとうございました。

資料編

- 高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- 平成 30 年度公開審査会アンケート結果
 - ・一般来場者
 - ・応募団体向け（対象：子ども）
 - ・応募団体向け（対象：大人サポーター）

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、高知市子どもまちづくり基金条例（平成24年条例第23号）第1条に規定する基金の設置目的を達成するため、高知市子どもまちづくり基金助成金（以下「助成金」という。）を交付することについて、補助金等の交付に関する条例（昭和29年条例第19号）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(助成対象団体)

第2条 助成金の交付の対象となる団体（以下「助成対象団体」という。）は、次に掲げる要件のすべてを満たす団体とする。

- (1) 本市に在住又は通勤若しくは通学している18歳以下の子どもが3人以上いること。
- (2) 団体の責任者及び監査として、20歳以上の大人が2人以上いること。
- (3) 活動の目的が明らかであり、当該助成に係る事業を自主的に行えるものであること。
- (4) 複数の世帯で構成される団体であること。
- (5) 過去に、同一の事業についてこの要綱に基づく助成金の交付を3回以上受けていないこと。
- (6) 団体の運営に関する規約、会則等を定めており、適切な会計処理が行われていること。

2 前項の規定にかかわらず、助成対象団体が、高知市事業等からの暴力団の排除に関する規則（平成23年規則第28号。以下「規則」という。）第4条各号のいずれかに該当すると認める場合は、助成金の交付の対象としない。

(助成対象事業)

第3条 助成金の交付の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は、本市内において、子どもが主体となって取り組むまちづくり活動に係る事業とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる活動は助成対象事業としないものとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) 宗教的又は政治的な活動
- (3) 学校の授業の一環として行う活動

(助成対象経費)

第4条 助成金の交付の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は、助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費とする。

(助成金額)

第5条 助成金額は、助成対象経費の額を限度として予算の範囲内において、市長が認める額とする。

(助成金の交付申請)

第6条 助成対象団体は、助成金の交付を受けようとするときは、助成金交付申請書（様式第1号）に、必要書類を添えて、市長に申請しなければならない。

(助成金の交付決定)

第7条 市長は、前条の申請があったときは、その内容を審査し、助成金の交付の可否を決定し、適当と認めるときは助成金交付決定通知書(様式第2号)により、適当でないと認めるときは所定の助成金交付却下通知書により当該申請をした助成対象団体に通知するものとする。

2 市長は、助成金の交付決定に際し、必要な条件を付することができる。

(交付申請の取下げ)

第8条 前条第1項の規定により助成金の交付決定を受けた助成対象団体(以下「助成事業者」という。)は、その内容又はこれに付された条件に不服があり、交付申請を取り下げようとするときは、当該交付決定の通知を受けた日から2週間以内に、その旨を所定の助成金交付申請取下届出書により市長に届け出るものとする。

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付決定はなかったものとみなす。

(変更承認等)

第9条 助成事業者は、助成金の交付決定を受けた事業(以下「助成事業」という。)について、事業内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、あらかじめ助成事業変更等承認申請書(様式第3号)により、市長に申請し、その承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の申請があったときは、速やかにその内容を審査し、変更等の可否を決定し、所定の助成事業変更等承認(否認)通知書により当該申請をした助成事業者に通知するものとする。

(実績報告)

第10条 助成事業者は、助成事業が完了したときは、速やかに実績報告書(様式第4号)に、関係書類を添えて市長に報告しなければならない。

(助成金額の確定)

第11条 市長は、前条の報告があったときは、速やかにその内容を審査し、助成事業の成果が助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき助成金額を確定し、助成金額確定通知書(様式第5号)により助成事業者に通知するものとする。

(助成金の交付請求及び交付)

第12条 助成事業者は、前条に規定する助成金額の確定通知を受けたときは、助成金交付請求書(様式第6号)により市長に助成金の交付を請求するものとする。

2 市長は、前項の請求があったときは、速やかにその内容を審査し、適当と認めるときは、助成金を交付するものとする。

(助成金の概算払)

第13条 市長は、助成事業について必要があると認めるときは、助成金の概算払をすることができる。

2 助成事業者は、概算払を受けようとするときは、助成金概算払請求書(様式第7号)により、市長に

請求しなければならない。

(助成金の交付決定の取消し)

第14条 市長は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当したときは、助成金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により助成金の交付を受けたとき。
- (2) 規則第4条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 助成金を助成事業の目的以外に使用したとき。
- (4) 助成事業の実施方法が不相当と認められるとき。
- (5) 助成事業を中止又は廃止したとき。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、助成金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他この要綱に基づく命令に違反したとき。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 市長は、第1項の規定による取消しをしたときは、所定の助成金交付決定取消通知書により、助成事業者に通知するものとする。

(助成金の返還)

第15条 市長は、前条第1項の規定に基づき助成金の交付決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金を交付しているときは、期限を定めて、その返還を命じなければならない。

2 市長は、助成事業者に交付すべき助成金額を確定した場合において、既にその額を超える助成金を交付しているときは、期限を定めて、当該確定した助成金との差額の返還を命じなければならない。

(調査等)

第16条 市長は、助成事業の適正な執行を確保するために必要な限度において、助成事業者に対し、書類の提出若しくは報告を求め、又は必要な調査をすることができる。

(整備保管)

第17条 助成事業者は、助成事業に係る帳簿及び関係書類を整備するとともに、助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

(その他)

第18条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

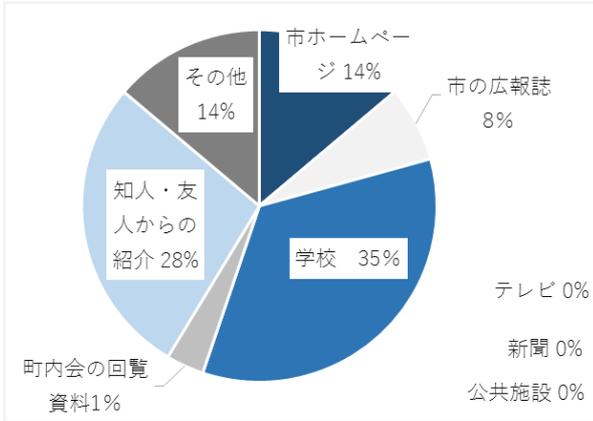
附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

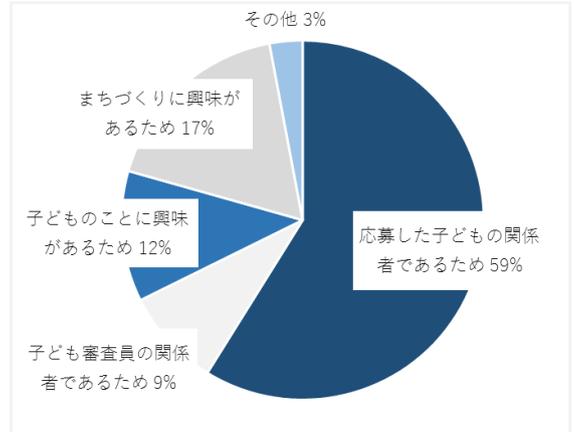
平成 30 年度公開審査会 【一般来場者アンケート】

アンケート回答数：26 人

**問1 公開審査会について何で（どこで）
知りましたか。**



**問2 公開審査会に来た目的は何ですか。
(複数回答可)**



問3 こうちこどもファンドについてどのような印象を持ちましたか。

- ・ まちの改善方法を子どもが1人で考えることが、将来実際にまちを支える手がかりになると思う。
- ・ 子どもたちが自ら学ぶ意識を育てるために、良い事業だと思う。それぞれの活動にしっかりとした規約があり、きちんとした印象を受けた。
- ・ 熱心に取り組めていてすごいと思った。
- ・ 子どもたちが自分で考え、参加できて良いと思う。様々なグループの考えや内容が見えてよかった。
- ・ 子どもたちのやる気（自主性）を伸ばす手助けをしてあげる素晴らしい活動だと思います。
- ・ 未来に向けて、希望を持てると感じる。
- ・ 子どもたちが地域や自分たちに希望を持ち、考え、実行に移せる良い機会だと思いました
- ・ 子どもたちの考える力やプレゼン力が磨かれる、大変よい取り組みだと感じました
- ・ 皆の頑張りが伝わってきてドキドキでした。素晴らしい！
- ・ 各グループで発表に特徴があり、とても良かった。
- ・ 子どもたちそれぞれが自身の思いを考えまとめ形にして発表できる場があり、それらを後押しし、サポートしてもらえる取り組みがあるというのが、うらやましく良いなと思う。
- ・ それぞれのグループが思い思いの手法でプレゼンをしている姿に感動した。将来自分が暮らす「まち」が少しでも良くなるように工夫してくれている子どもたちに負けないように、大人も頑張らないといけませんね。
- ・ 素晴らしい活動だと思います、地域振興のすそ野の広がりに繋がると思います。
- ・ 児童生徒のやりたいことを大人がもっとよく聞いて、本当にしたいことを子どもの狙いに沿って形にする必要あり。まだまだ熟成させられると感じる。そのためには、じっくりと向き合い待つ必要

あり。

- ・審査員の子どもたちの質問もしっかりしていて、本当にこども主体の活動だと思いました。
- ・子どもたちが色々なことを考えていることがわかり、その表現の場になっていると感じました。
- ・子どもたちの主体的な活動に繋がっている、地域おこしの視点が育つのではないのでしょうか。
- ・子どもたちが自分たちの住んでいる地域・町で、活動・交流しているという気持ちがうれしい。

問4 本日の審査会進行について、何か改善したほうがいいと思うことはありましたか。

- ・大人の方の質問がもっと多くあればよかったなと思った。
- ・マイクの音が良くなかったのが気になった。
- ・これ以上は難しいかもしれませんが、長時間なので・・・
- ・会場最後部から見させていただきましたが、スクリーンが少し見づらかった。
- ・子どもたちの疲労度を考えると、質問については1回にまとめた方がよいかと思った。

問5 こどもが審査に加わることをどう思いますか。

- ・まちに対する愛着などが沸くので、よいと思う。
- ・こどもならではの単純だからこそ大人が気づきにくい着眼があるのでよい。
- ・子どもが疑問に思うことは違うので、やっぱりおもしろい。
- ・多様な考えを持ち、高知のことを良くしようとする子どもたちに触れる機会ができて、有意義だと思う。
- ・大人よりも子どもたちの質問のほうがとても要点を掴んでいて厳しいと思うが、「視点がすごい！」と感心した。
- ・子ども審査員の指摘がするどくてびっくりしました。素晴らしい！
- ・同じ子どもとしての目線が必要だと思います。
- ・「こどもファンド」の名にふさわしい手法だと思います。活動する側も審査する側も、大人の力を借りながら、「自分たちで考え、決めた」ことを大切にするのではないのでしょうか。
- ・子どもなりの質問が出て、その応答が素直でよかったです。
- ・とても良いシステムだと思います。
- ・子どもならではの視点に光るものがあり、とてもいいと思う。
- ・審査側になることで、より深く考えるのではないかと思う。
- ・子どもだからことできる質問があつてよい。発表する側も緊張感を持てる。
- ・子どもの同一視点での見方や評価ができ、大人と違った良い方法ではないかと思います。するどい質問が出ることもあるようです。

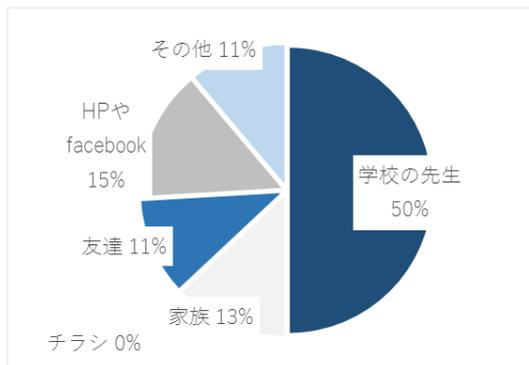
問6 こどもファンドの制度についてや、本日の感想など自由にかいてください。

- ・子どもたちにも勉強になったと思う。
- ・分かりやすい進行や個性のある発表が参考になった。
- ・受け答えも質問する側もはっきりしていて、驚いた。
- ・様々な企画を見ることができ、子どもたちの意見を知ることができてよかった。3月に向けて、一緒に取り組んでいきたい。
- ・こどもたちの真剣な顔やプレゼン終了後のほっとした顔、悩む顔など、いろいろな顔を見ることができてよかった。
- ・3月の活動発表会を楽しみにしています。助成団体も事務局も頑張ってください。
- ・実際に活動に関わっている者として、大人も色々と経験をさせてもらいありがたく思っています。
- ・自由度が高いということで、自由な発想が生まれるのだと思う。ぜひ続けて欲しいです。
- ・子どもたちが発表会での経験ができて、ひとつ成長でき、地域との交流もでき、子どもたちの将来がよいものになると思う。
- ・こどもファンドはそれぞれの思いをサポートすることに繋がり、良いと思う。今日初めて出席したが、なかなかおもしろい活動だなと感心し、拝見させていただいた。
- ・未来の高知市を担う子どもたちに社会への関わり方やまちづくりを知ってもらう入り口として、また子どもを通して大人にまちづくりに関わってもらう窓口として、とても有効な手段ではないかと思う。未来への投資として、決して高くない金額だと思う。ぜひ、大人ファンドへの連携も期待している。
- ・久重地区の発表にあったように、公的な活動や大人の活動と連携したり、その一部を子どもが担うということは大切（こどもたちの自主性を失わない程度に）。計画策定や組織作りなど、こどもたちにどこまで関与させるかは難しいところだと思います。社会性を養う限りで限定した方が、子どもらしい発想やのびのびした活動につながるのでは。
- ・活動予算の増額をお願いしたい。
- ・こどもの時代から「自分たちが社会を変えていこう」「何かしよう」と行動に移す良い機会になっていて、素晴らしい取り組みだと思います。
- ・こどもたちにとって、これからの時代は自分たちの時代であるという意識付けになると思います。
- ・子どもたちが発表した成果や提案を社会で認め、行政施策にも反映する手立てがあってもよいのではと考えます。

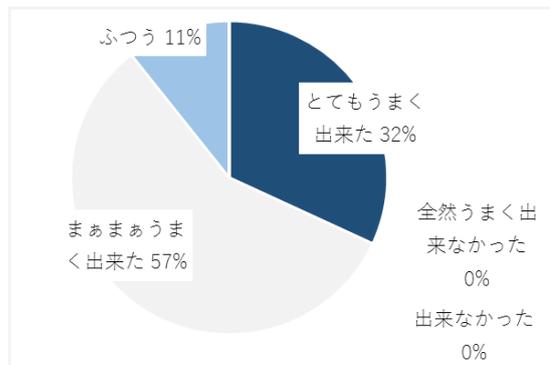
平成 30 年度公開審査会 【応募団体向けアンケート（対象：子ども）】

アンケート回答数：46 人

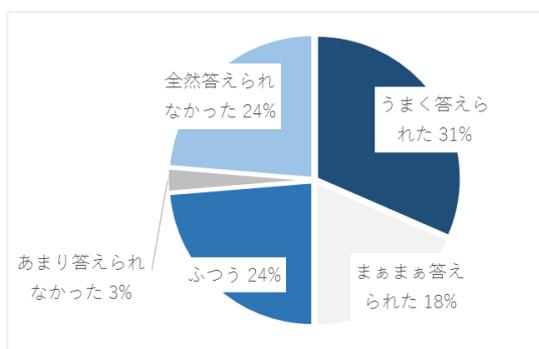
問1 こうちこどもファンドのことは
どうやって知りましたか。



問2 発表はうまくできましたか。



問3 審査員の質問にきちんと答えられましたか。

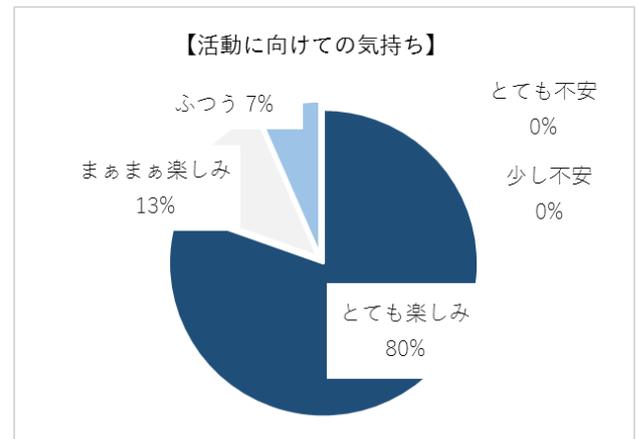
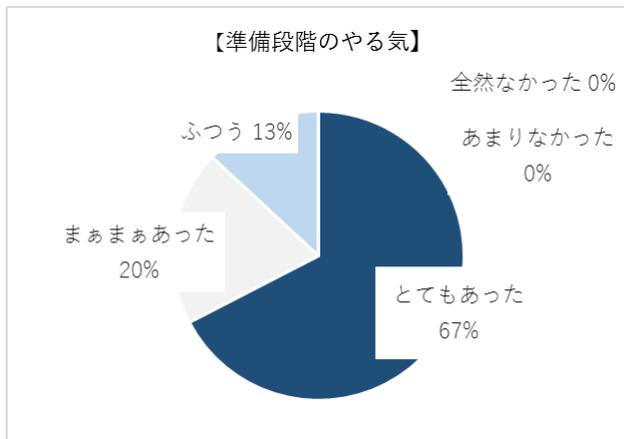


問4 他のグループの発表、質疑応答を聞いてどう思いましたか。

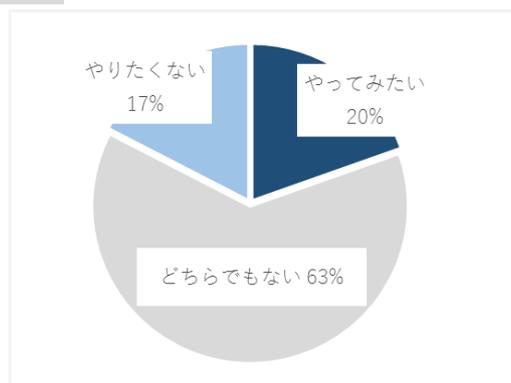
- ・大変そうだったけど、やりがいは感じてそうだった。
- ・うまく質疑応答ができていた。
- ・大きな声で聞きやすかった。
- ・他のグループに負けないぐらいがんばりたいです。
- ・プロみたいにすぐきちんと答えていて、すごいなと思いました。
- ・虹を見るこどもたちプロジェクトの発表・ピアノ・手話がすごくて、1番すばらしいと感じました。
- ・旭地区防災食プロジェクトは歌で発表していて、すごくわかりやすかった。
- ・どのグループもしっかりまとめて丁寧に発表していて、すごかった。見習いたい。
- ・今後のことについての計画もまとめられていて、歌や演奏もあっていいプレゼンテーションができていたと思った。
- ・他の団体の方とも合同でできるのではないかと思うものもあった。
- ・自分たちの活動に活かせそうなものがあったり、どんな質問がくるのか少し予想ができた。

- ・発表がショーのようになっていて、聞いている自分たちも楽しくなるプレゼンテーションは新しくいいと思った。
- ・自分たち以外のグループはパワーポを作っていたので、びっくりした。
- ・うまく質疑に答えられていた。また、質疑応答があることで、プレゼンテーションで分からないことがより深く知ることができた。
- ・おおっ子は劇がすごく、自然で見えて楽しかった。
- ・横のつながりはすぐにはできないかもしれませんが、私たちもその横のつながりを持ちたいし、このほかの6団体だけでなく、地域の様々な人や団体と繋がっていきたいと思った。
- ・高知県は30年以内にくるとされている南海地震に備えなければいけないということで、防災に対する取り組みが多いと思った。
- ・しっかりと自分たちの意見を発表していて、どのような思いでパワーポイントを作っていたかなどを発表時に感じた。
- ・皆さんレベルが高く、びっくりした。

問5 「審査会発表に向けて準備をしているときのやる気」、「プレゼンテーション後、活動に向けての気持ち」として当てはまるものはどれですか。



問6 こども審査員をやってみたいと思いますか。「やってみたい」または「やりたくない」を選んだ方は、その理由もお書きください。



【やってみたい理由】

- ・ やりがいを感じたから。
- ・ 地域のために頑張っている子達をもっと見てみたいと思ったから。
- ・ 色々な学校の取組について話を聞いてみたいから
- ・ 皆さんのアイデアに向き合い、よりよいものにしていくことは素晴らしいと思い、やってみたいと思ったから。
- ・ 自分も「地域をよくしたい！」という活動を応援したいと思ったから。
- ・ 今回の審査員に聞きたいことをズバズバと言われて気になった点も分かったが、まだ分からなくて気になった点もあったので聞いてみたいし、何より楽しそうと思ったから。
- ・ 私もあんな風に言えるようになりたいと感じたし、自分の質問をぶつけてどう答えてくれるかを想像するだけでワクワクするから。
- ・ 自分たちが審査をすることによって勉強になるし、質問力も上がるから。

【どちらでもない理由】

- ・ やりたくないわけではないが、話をするのが苦手なのでどちらでもない。
- ・ 審査員は責任が重いので、僕には無理かもと思った。
- ・ やってみたい気持ちはあるが、あまり人前で話すことは得意ではないから。
- ・ 発表できない人が発表できるようになると思ったから。

【やりたくない理由】

- ・ 大変そうだから。
- ・ 活動して、発表をやりたいから。
- ・ プレゼン（活動）をする方が好きだから。
- ・ 選ぶことが苦手だから。
- ・ マイクを持ってしゃべることが恥ずかしいから。

問7 そのほか、審査会やこどもファンドについて、もっとこうしてほしいことや、これからの活動の意気込みなど自由に書いてください。

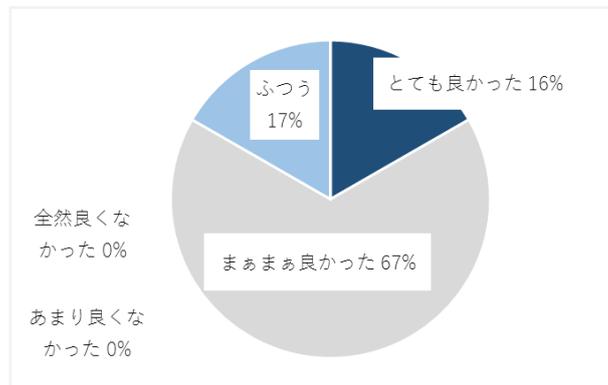
- ・ 質問がもっとくると思って緊張していたが、分かりやすい質問だったので回答しやすかった。
- ・ 支出についてもっと聞かれると思っていた。
- ・ これからも学校の活動に積極的に参加していきたいと思った。
- ・ 大津中学校がもっと地域と繋がることができるように、たくさんの方から話を聞いていきたい。また大津まつりを大津だけではなく、もっと多くの地域に広めて、大津をあかるいまちにしていきたい

い。また、生徒会活動を通して自分の活動に対する知識も増やしていき、南海トラフ地震に備えて、自分たちができることを増やしていきたい。

- ・ これからの活動は部活動を引退するので、もっと気合を入れて行きたい。
- ・ 私たちの団体は今回が初めてで足りない部分があったと思いますが、審査員の方たちに質問していただいたおかげで、どこをどうしたら良いのかがよくわかった。なので、私たちも審査員の方や地域の方たちの期待に答えられるように頑張りたい。
- ・ 机をもう少し大きくして欲しい。
- ・ 色々な人たちに喜んでもらえるように頑張りたい。
- ・ 地域のお役に立てるように頑張ります！
- ・ もっと高知のこどもたちの仲を深めるような「レクレーション」をやってほしい
- ・ これからの活動はとても大変だと思うけど、生徒会メンバーと一緒に乗り越えて、達成感のある劇にしたいと思った。個人的にも防災の知識を増やして、南海トラフ地震に備えたい。
- ・ 防災に対する意識を地域全体に広げて、「大津」という地域をこのメンバーで明るいものにしていきたいと思った。地域と笑顔で繋がっていけるように、これから地域の人や学校の先生、ふれあいセンターなどと協力していこうと改めて思った。また、他のチームの発表や取り組みを聞いて「なるほど」という意見が多くあったし、「横のつながり」をできるならしていきたいと思った。
- ・ 担任の先生から「私が小～中学校のときに絶海池は魚がぴょんぴょんと飛び跳ねていて、水もキレイだったから野市から絶海池まで自転車で釣りにいっていた」と聞いたので、私たち生徒会が活動をしていくことで、将来絶海池がそのようになっていることを目標に頑張っていきたいと思った。
- ・ もっと時間をもらえると満足した発表ができるし、焦らずに審査員に伝えることができると思った。また、見てる人が退屈しないように工夫するのも良いと思った。私たちは絶海池の清掃に力を入れ、2年の私たちが高1の春には清々しい絶海池にしたいので、毎年より一層きれいにできるように頑張りたい。
- ・ これからの活動をより良いものにして、地域との関わりを増やしていきたいと思った。また、大津がもっと明るいまちになったらいいなと思ったし、大津全体が平和だったらいいなと思った。
- ・ 中学校で忙しいとは思うけど、なるべく参加するように頑張りたい。
- ・ 地域の方と協力しながら、楽しく活動していきたい。また、もしものときに備えて、さつまいもなどの野菜の栽培も頑張りたいと思った。
- ・ これからサバイバルキャンプなど、みんなと協力して防災のことを知れるので、楽しみです。
- ・ 久重の魅力を高知市の方だけではなく、高知県内の皆さんに知ってもらえるように頑張りたい。
- ・ 助成金を使って地域をよくしていきたい。
- ・ サバイバルキャンプが楽しみです。
- ・ 活動は大変で疲れることもあるけど、残り1年しかないし、やりがいも感じているので頑張りたい。

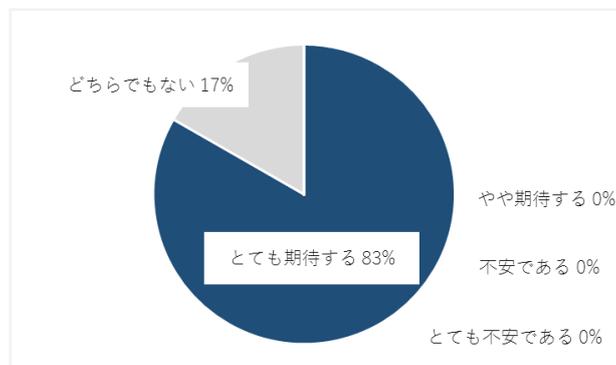
問1 審査会の進め方はどうでしたか。

- ・他の団体のプレゼンテーションは非常に説得力のあるものが多く、参考になった。
- ・少し長いと感じた。
- ・タイムテーブルと若干のずれがあった
- ・緊張もしており、かなり疲れ感があるので、休憩が少ないほうがよい。



問2 これから子どもたちが進める活動について、今どのように思いますか。

- ・卯月先生の仰っていたように、たくさんの方に活動をしてもらい盛り上げていきたいと思います。
- ・防災を通して地域と繋がることで地区の活性化につながり、生徒たちの地域の一員である自覚がうまれると思います。
- ・とても活動が楽しみです。子どもたちと楽しみながら取り組んでいきたいです。
- ・どの活動も地域のために子どもたちが頑張ってくれるんだらうなと感心しました。



問3 子どもがまちづくりに関わることで、ご自分の行動や意識にどのような変化があると思いますか。

- ・自分たちの住むまちについて考え、より住みやすいまちづくりに参加したり貢献したりすることでコミュニケーション能力や主体的に活動できる生徒を育成することができるのではないかと思った。
- ・子どもである必要はないと思うが、まちづくりに関わりと視野が広がることはいいことではないかと感じる。
- ・ともに大津地区でできることを考えると思います。
- ・子どもと一緒に作業をすることで、コミュニケーションが取れていい輪が広がる。
- ・次の世代に繋がる子どもを育てるため、地域の良さや現状を知ってもらいたいと思います。いい機会になり、感謝しています。
- ・そのまちの一員である意識と責任感が育ち、他者に思いやりの心で接してくれるようになると期待しています。

問4 本日の審査会や「こどもファンド」の制度に関して、もっとこうして欲しいという点や、お気づきになった点があればお書きください。

- ・いつもお世話になり、ありがとうございます。手厚い対応で安心して応募することができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・会場設営等、運営お疲れ様でした。良い発表会でした、ありがとうございました。
- ・6月の審査会を早めてほしい。また、年間を通して活動を継続できるようにしてほしい。
- ・とても子どもたちが成長するいい機会を与えていただき、ありがとうございました。
- ・色々アドバイス等をいただき、感謝しています。今年もよろしくお願いいたします

【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43

TEL / 088-823-9080

FAX / 088-824-9794

<平成30年8月発行>